

開放粉碎骨折肢に対する paramalleolar bypass の 1 例

獨協医科大学病院ハートセンター 心臓・血管外科

緒方 孝治 (おがた こうじ)

桐谷 ゆり子, 柴崎 郁子, 小川 博永, 武井 祐介, 手塚 雅博, 関 雅浩, 加藤 昂, 福田 宏嗣

38 歳男性. スクーター運転中, スリップしてきた乗用車と衝突して受傷, 当院救命センターへ搬送された. 右下腿の開放性骨折を認め, 右足部は皮膚温低下, 動脈拍動は消失していた. 右下腿急性動脈閉塞, 腓腹部動脈損傷, 脛骨・腓骨開放粉碎骨折と診断された. 【手術】腓腹部で離断された動静脈を結紮し止血した. 下腿の創外固定を行った後, 左大伏在静脈グラフトを用いて右膝下-後脛骨動脈(paramalleolar)バイパスを行った. 【術後】再灌流障害の徴候は認めず, 右足部の血流は改善したが, 腓腹部開放創の感染コントロールがつかず, 術後 16 日目に下腿切断となった.

(先の脈管学会で提示した症例ではありますが, 治療の適応, 方法等について, Peripheral Artery Surgical Meeting ご参加の先生方のご意見を賜りたく, 本会でも提示させていただきます.)